

計算社会科学研究センター 2024 年度活動報告書

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)



CCSS
Center for Computational Social Science

目 次

I.	計算社会科学研究センターの概要
II.	組織の編成
	1. 構成と人員	
	2. 研究部門と支援部門	
III.	最近における特記事項
	1. Journal of Computational Social Science について
	1.1 ジャーナル刊行	
	2. 計算社会科学の人材育成
	2.1 CCSS Workshop on Computational Social Science 開催	
	2.2 The 2nd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025	
	2.3 YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』	
	3. 大型科研費・外部資金獲得実績	
	4. データベースの構築と公開	
IV.	リサーチフェロー
V.	研究実績と活動状況
	1. シミュレーション部門	
	上東 貴志 (部門長)
	北野 重人
	大石 哲
	貝原 俊也
	横川 三津夫
	佐野 英樹
	2. データ分析部門	
	西谷 公孝 (部門長)
	中川 丈久
	栗木 契
	小林 照義
	柴本 昌彦
	西村 和雄
	ホリオカ・チャールズ ユウジ
	加藤 諒
	Ivan ROMIC
	WAQAR, Wafa Tariq
	3. データベース部門	

高槻 泰郎（部門長）
小代 薫
田中 克幸
正田 ヴェラ パオラ レイエス

VI. 今後の展望と方針
--------------	-------

I. 計算社会科学研究センターの概要

計算社会科学研究センター（CCSS：Center for Computational Social Science）は、社会科学、計算科学、データサイエンスの融合領域である計算社会科学における共同研究を推進し、計算科学とデータサイエンスに基づいた新しい社会科学としての計算社会科学の確立と体系化を目指し、世界的に同領域を牽引する国際研究拠点を形成することである。

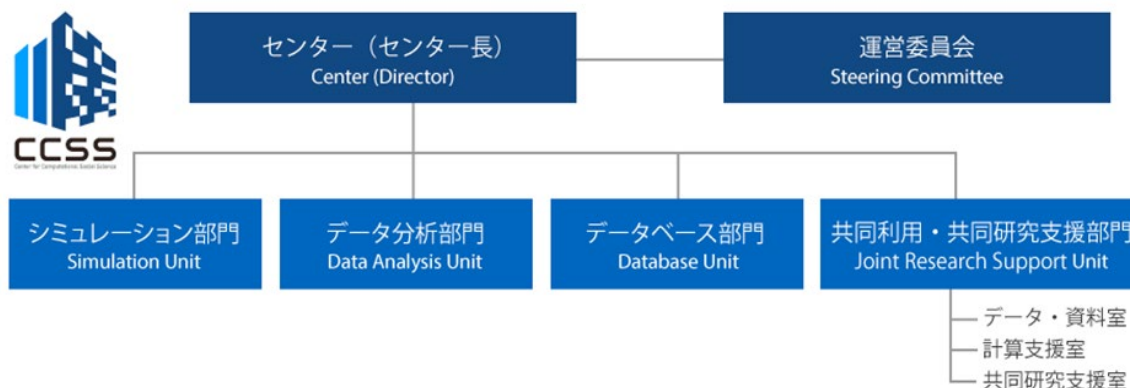
本センターは、2017年3月15日に経済経営研究所の部局内組織として創設され、2018年4月1日に全学基幹研究推進組織となる。

計算社会科学研究センターは、前述の目的を達成するために、シミュレーション部門、データ分析部門、データベース部門、共同利用・共同研究支援部門（2021年4月設置）で構成され、計算社会科学における先端研究、研究を促進するための技術開発、研究を促進するためのデータベース作成、その他学術研究の推進と普及のために必要な研究等に取り組んでいる。

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」である。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析を中心とした高度な計算技術を用いた社会現象の定量的分析であり、近年急速に発展している。本センターは、計算社会科学に特化した唯一の研究センターであり、他大学にない独自性の高いものである。

II. 組織の編成

1. 構成と人員



運営委員 (2024年4月1日現在)

氏名	職位	部門	所属
上東 貴志	センター長 教授	シミュレーション部門	計算社会科学研究センター
柴本 昌彦	副センター長 教授	データ分析部門	計算社会科学研究センター
高槻 泰郎	副センター長 准教授	データベース部門	経済経営研究所
西谷 公孝	教授	データ分析部門	経済経営研究所一
砂原 庸介	教授		法学研究科
小林 照義	教授	データ分析部門	経済学研究科
丸山 祐造	教授		経営学研究科
高橋 新吾	教授		国際協力研究科
天能 精一郎	教授		システム情報学研究科
大石 哲	教授	シミュレーション部門	都市安全研究センター

2. 研究部門と支援部門 (2024年4月1日現在)

シミュレーション部門

社会経済モデルのシミュレーションに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職位	氏名		学域
教授	上東 貴志	Takashi KAMIHIGASHI	先端経済経営研究学域
教授	北野 重人	Shigeto KITANO	先端経済経営研究学域
教授	大石 哲	Satoru OISHI	工学域
教授	貝原 俊也	Toshiya KAIHARA	システム情報学域
教授	横川 三津夫	Mitsuo YOKOKAWA	システム情報学域
教授	佐野 英樹	Hideki SANO	システム情報学域

データ分析部門

大規模データに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職 位	氏 名		学 域
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	先端経済経営研究学域
教授	西谷 公孝	Kimitaka NISHITANI	先端経済経営研究学域
教授	中川 丈久	Takehisa NAKAGAWA	法学域
教授	小林 照義	Teruyoshi KOBAYASHI	経済学域
教授	栗木 契	Kei KURIKI	経営学域
特命教授	西村 和雄	Kazuo NISHIMURA	先端経済経営研究学域
特命教授	ホリオカ・チャー ルズ・ユウジ	Charles Yuji HORIOKA	先端経済経営研究学域
准教授	加藤 諒	Ryo KATO	先端経済経営研究学域
特命助教	ロミチ, イヴァン	Ivan ROMIC	先端経済経営研究学域
助手	ワカル, ワファ タリク	WAQAR Wafa TARIQ	先端経済経営研究学域
学術研究員	佐々木 洋介	Yosuke SASAKI	先端経済経営研究学域

データベース部門

計算社会科学に関わるデータベースの構築を行う。

職 位	氏 名		学 域
准教授	高槻 泰郎	Yasuo TAKATSUKI	先端経済経営研究学域
特命講師	小代 薫	Kaoru KOSHIRO	先端経済経営研究学域
特命講師	田中 克幸	Katsuyuki TANAKA	先端経済経営研究学域
助教	正田 ヴェラ パオラ レイエス	Vera Paola Reyes SHODA	先端経済経営研究学域

共同利用・共同研究支援部門

職 位	氏 名		学 域
教授	榎本 正博	Masahiro ENOMOTO	データ資料室
講師	國本 光正	Terumasa KUNIMOTO	データ資料室
教授	瀧 俊毅	Nobuaki HAMAGUCHI	計算支援室
助教	内田 並子	Namiko UCHIDA	計算支援室
特命助手	石田 輝郎	Teruo ISHIDA	計算支援室
教授	岩佐 和道	Kazumichi IWASA	共同研究支援室
教授	柴本 昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	共同研究支援室
助教	中田 未央	Mio NAKATA	共同研究支援室
助手	下大藪 充重	Michie SHITAOZONO	共同研究支援室

Ⅲ. 最近における特記事項

1. Journal of Computational Social Science について

1.1. ジャーナル刊行

平成 30 (2018) 年 計算社会科学の国際的専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』を創刊した。

神戸大学計算社会科学研究センター (CCSS: Center for Computational Social Science。以下「CCSS」という。) と経済経営研究所の協力の下で、平成 30 (2018) 年 1 月にこの領域において世界初となる専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』 (Springer 社 以下「JCSS」という。) が創刊され、上東貴志計算社会科学研究センター長が初代編集委員長に就任した。

計算社会科学に特化した世界初の査読付学術雑誌として、世界中から多数の論文が投稿されており、創刊した 2018 年から 2024 年までの 7 年間で 321 本の論文を掲載している。計算社会科学研究の発表の場として既に国際的に広く認識されており、優れた研究成果を世界へ発信する場となっている。JCSS の編集委員は、世界的に活躍する 28 名の研究者からなり、その所属機関の位置する国は世界 13 か国に及ぶ。また過去 3 年間の掲載論文著者の所属機関国は 37 か国となり JCSS が世界的に広く開かれた国際学術雑誌であるだけでなく、国際的需要が極めて高いことも表している。

2020 年 JCSS は、Clarivate Analytics 社 (以下「CA 社」という) が 2015 年から新たなデータベースとして導入した Emerging Sources Citation Index(ESCI)に収録された。ESCI は、ジャーナルとして国際的な基準に達しており、かつ今後、質の向上が見込まれる学際的なジャーナルを集めたデータベースであり、2018 年 1 月の創刊間もない JCSS が収録されたことは意義深い。

またクラリベイト社が発表した Journal Citation Reports 2023 年版で、Journal Impact Factor3.2 を獲得している。引き続き、JCSS の Social Science Citation Index (SSCI) への掲載を目指している。

The screenshot shows the Springer Nature Link page for the Journal of Computational Social Science. The page features a navigation bar with 'Menu', 'Search', and 'Cart' options. Below the navigation bar, there is a 'Home' link and the journal title 'Journal of Computational Social Science'. A 'Submit your manuscript' button is prominently displayed. The 'Journal menu' section is expanded to show an 'Overview' section. The overview text describes the journal as an interdisciplinary journal focusing on research across social sciences, physics, biology, management science, computer science, and data science. It also lists key features: publishing research spanning various fields using computational approaches, inviting contributions analyzing social/economic structures and phenomena, and benefiting scholars seeking a computational perspective on social and economic structures. The journal was first published in January 2018. The Editor-in-Chief is Takashi Kamihigashi. On the right side, the 'Journal metrics' section displays: Journal Impact Factor 2.3 (2024), 5-year Journal Impact Factor 2.5 (2024), Submission to first decision (median) 27 days, and Downloads 337.8k (2024).

2. 計算社会科学の人材育成

計算社会科学研究センターでは、今後の計算社会科学を牽引する人材を養成するため、また、世界的に活躍する計算社会科学の研究者と若手研究者との交流や議論を交わす場を設けることを目的とし、国際カンファレンスの開催やカンファレンスの内容を動画で作成・公開している。

2.1. CCSS Workshop on Computational Social Science を開催

令和6（2024）年12月26日（木）に、"CCSS Workshop on Computational Social Science : Methods and Applications"を開催した。ワークショップでは計算社会科学の分野で世界的に有名な、フィンランド・アールト大学教授で、当センターリサーチフェローの Petter Holme 氏も参加し、当センターの Ivan Romic 特命助教の司会のもと、7か国16名の若手研究者や大学院生など教育関係者が出席し、それぞれの報告で多くの質問・ディスカッションが繰り広げられ、予定の時間を大幅にオーバーする活発なワークショップとなった。

2.2. 「The 2nd CCSS-UvA Joint Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025」

令和7（2025）年3月5日から6日にかけて、オランダのアムステルダム大学にて、“The 2nd CCSS-UvA Joint Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025”を開催した。このワークショップは、神戸大学計算社会科学研究センターとアムステルダム大学情報学研究所および社会行動科学部の共催で行われた。

ワークショップ1日目は、メインコーディネーターである Ivan Romic 氏（神戸大学計算社会科学研究センター）と Fernando Santos 氏（アムステルダム大学情報学研究所）が概要を説明し、10名の研究者が、経済学、ビジネス、金融、環境科学、メンタルヘルスなど、多様な分野における計算社会科学的手法の応用事例について発表した。発表内容は、人間やAIエージェントの行動を研究するための理論的、実験的、ハイブリッドなアプローチなど多岐にわたり、トピックには、ハイブリッド集団における協力と評判のダイナミクス、社会的ジレンマにおける人間の協力を反映する大規模言語モデル（LLM）の能力などが含まれた。



このプログラムでは、地球システム予測のための基礎モデルの利用や、社会規範とメンタルヘル

スを症状レベルで理解するための計算機的アプローチに関する講演も行われた。さらに、不正検知、銀行と借り手のネットワークにおけるリレーションシップ・レンディング、匿名化データを利用したダイナミックな産業セグメンテーションなど、金融における AI と機械学習の応用について探求するセッションもあり、断続的な給水のような資源不足に対する社会的適応を理解するための計算手法が発表された。

ワークショップ 2 日目は、Steven Pickering 氏（アムステルダム大学社会行動科学部）による Roeterseiland キャンパスのキャンパスツアーを行い、計算社会科学プログラムの学部 2 年生が実際に受講している授業を見学した。参加者は熱心にメモを取り、質問を通して積極的に講師と関わるなど、高い関心を示した。



授業見学後のワークショップでは、アムステルダム大学 社会・行動科学部の計算社会科学学士プログラムのディレクターである Eelke Heemskerk 氏による、プログラムの構成、目的、教育的アプローチについての詳細なプレゼンテーションが行われた。

その後、アムステルダム大学の Steven Pickering 氏、Giovanni Sileno 氏（アムステルダム大学情報学研究所）、Vitor Vasconcelors 氏（アムステルダム大学情報学研究所）、神戸大学からは、柴本昌彦氏、内田浩史氏（神戸大学大学院経営学研究科）、宮崎智視氏（神戸大学大学院経済学研究科）の 3 名が参加し、それぞれの学部における計算社会科学やデータサイエンスの教育プログラム立ち上げの取り組みについて発表した。また、実施するに当たり課題も共有され、学際的な議論が活発に行われた。

最後に、アムステルダム大学の計算社会科学学位プログラムに在籍する 4 人の学生（1 年生 1 名、3 年生 3 名）が、現在進行中のプロジェクトについて報告し、PBL (Problem-Based Learning) カリキュラムやプロジェクト作業についての経験を共有した。



2023 年度に引き続き、2024 年度の 2 日間にわたるワークショップは成功裏に終了し、両大学のパートナーシップは一層強化された。今後は、教育・研究の分野において、より具体的な共同プログラムや共同プロジェクトの実現に向けて、さらなる連携活動を継続していく計画である。

2.3. YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』

主に大学院生や研究者を対象に、2022 年に『計算社会科学入門』（丸善出版、2021 年 1 月発行）12 章のうち 9 章の紹介動画とともに開設した。その後も動画を追加している。

CCSS School on Computational Social Science - YouTube

<https://www.youtube.com/@ccssschooloncomputationals1386/featured>

3. 大型科研費・外部資金獲得実績

●上東貴志（教授・シミュレーション部門）：

- ① 文部科学省 科学研究費補助金：基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：金融危機から国際関係・災害リスクまで」（研究代表者）2020～2024 年度

●大石哲（教授・シミュレーション部門）

- ① 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)
課題「スマート防災ネットワークの構築」
サブ課題 E 防災デジタルツインの構築（研究代表者）2023 年度～2028 年度

4. データベースの構築と公開

計算社会科学は良質のデータを得て、その力を発揮する。

当センターでは、重要なデータを独占することなく、広く共有することで、計算社会科学の裾野を広げることを使命としている。その象徴とも言える試みが、研究データベースの公開であり、Historical Database と Market Database という 2 本の柱からなる。

前者では、令和 3（2021）年度から 18 世紀から 20 世紀（第二次大戦前）にかけての歴史的数値データを公開している。具体的には、①江戸時代中期以降における米価、金銀比価（金貨と銀貨の交換レート）、天候、経済的イベント、自然災害などを日次ベースで整理した近世経済データ

ベース (Early Modern Historical Database) と、②近代日本に関するマクロ経済指標 (月次)、国債利回り (月次)、財政・政府債務 (年次) のデータである。

そして令和 5 (2023) 年度には、Historical Database の目玉として、江戸時代の大坂の豪商「加島屋 (広岡) 久右衛門家」、「加島屋 (広岡) 五兵衛家」に伝来した歴史的資料群のリストおよびデジタルデータを、「加島屋廣岡家アーカイブ」と題して、CCSS データベースのページで試験的に公開した (拡充に向けて一時閉鎖中、2024 年度中に再開予定)。

江戸時代創業の金融商であり、加島銀行、大同生命保険の創業一族である廣岡久右衛門家 (本家)、廣岡五兵衛家 (分家) の方より、両家に伝来の古文書・古写真、約 2 万点を、神戸大学経済経営研究所 (以下、研究所) に寄託・寄贈したい旨の申し出があり、2022 年 12 月、両家ご子孫と経済経営研究所との間で受け入れ契約を正式に交わすこととなった。

また、大同生命保険株式会社に伝来した同家の経営史料については、大阪大学経済史・経営史資料室に保管されているが、この一部も含める形で、以下の 3 つの史料群についてデジタルデータの公開を当センターは実現した。



- ① 大同生命文書 (大阪大学経済史・経営史資料室寄託)
- ② 廣岡久右衛門家文書 (神戸大学経済経営研究所寄託)
- ③ 廣岡五兵衛家文書 (大阪大学経済史・経営史資料室寄贈)

加島屋久右衛門玉水町本宅
(廣岡久右衛門家文書より)

1625 年に大坂で創業したと伝わる加島屋久右衛門 (廣岡家)

は、米取引で財を成し、大名との関係性を切り結んで、その資金繰りを助ける中で豪商へと成長し、世界初の先物取引として名高い大坂の堂島米市場が、1730 年に江戸幕府によって認可された際には初代の頭取役に任命されている。18 世紀の半ばには、江戸幕府から大坂商家の筆頭に数えられるまでになった (高槻泰郎 (2012) 『近世米市場の形成と展開』名古屋大学出版会)。

これらの資料を用いた研究として、当センターの副センター長・高槻泰郎を研究代表者とする科研プロジェクト (基盤 B、16H03645) があり、その成果は書籍として刊行され (高槻泰郎編著 『豪商の金融史—廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション—』慶應義塾大学出版会、2022 年)、主要新聞各紙、週刊東洋経済、週刊エコノミストなどに書評が掲載され、いずれも高い評価を得ている。

世界初の先物市場、商人と大名のリレーションシップバンキング、近代的銀行業、保険業、これら全てに廣岡家は関与していたため、その経営を分析することは、日本の金融市場がどのような自生的発展を遂げ、グローバル市場との接触を経て、どのように変化したのか、という極めて大きなテーマを分析することを可能とし、経済史・経営史のみならず、日本史・金融ファイナンス論など、多くの研究分野に対して良質な研究素材を提供することになる。

また、同家は NHK 朝の連続テレビ小説「あさが来た」(2015 年度下期) のモデルとなった家であることから一般的な知名度も高く、学術研究の分野以外への波及効果も期待できる。

現在は、より見やすく、またより使いやすいデータベースとするべく、大同生命保険株式会社と連携してウェブサイトの拡充を進めており、2024 年度中の本格公開を目指している。

Market Database は、『地域別の市場データと消費者プロファイルの日次ベースで傾向整理したデータベース。ソーシャルメディア「SNS」（ツイッターや Google レビュー）の話題と感情のデータ』である。

IV. リサーチフェロー

2024年4月1日現在、19名のリサーチフェローが所属している。

	研究者氏名	所属	職名
1	Alain Barrat	CNRS, Centre de Physique Théorique, 東京工業大学	Deputy director, 特任教授
2	Ciro Cattuto	ISI Foundation	Principal Scientist
3	Emilio Ferrara	Univ of Southern California	Professor
4	Petter Holme	Aalto University	Professor
5	Kimmo Kaski	Aalto University	Professor
6	増田 直紀	State University of New York at Buffalo	Professor
7	Jesús Gómez Gardeñes	University of Zaragoza	Associate Professor
8	Corrado Di Guilmi	University of Technology Sydney;	Senior Lecturer
9	鳥海 不二夫	東京大学	教授
10	笹原 和俊	東京工業大学	准教授
11	瀧川 裕貴	東北大学	准教授
12	遠藤 薫	学習院大学	教授
13	藤原 義久	兵庫県立大学	教授
14	和泉 潔	東京大学	教授
15	野田 五十樹	産業技術総合研究所	総括研究主幹
16	伊藤 伸泰	理化学研究所	チームリーダー
17	榊 剛史	株式会社ホットリンク, 東京大学未来ビジョン研究センター	開発本部 R & D 部長, 客員研究員
18	SALAMA SHADY	立命館大学	助教
19	三浦 崇寛	文部科学省	係員

V. 研究業績と活動状況

教授 上東 貴志 (Takashi KAMIHIGASHI)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Extracting Official Agencies’ Communication Patterns During the COVID-19 Pandemic: A Text Mining Approach,” (with Shady Salama and Akira Matsui), in *Lecture Notes in Networks and Systems(Proceedings of the Third International Conference on Innovations in Computing Research (ICR’24))*, edited by Kevin Daimi and Abeer Al Sadoon, Springer, Vol.1058, pp.3-12, doi.org/10.1007/978-3-031-65522-7_1, August 2024
2. “Governors in the Digital Era: Analyzing and Predicting Social Media Engagement Using Machine Learning during the COVID-19 Pandemic in Japan,” (with Shady Salama and Vera Paola Shoda), *Informatics*, Vol. 11, Issue 2, 17, doi.org/10.3390/informatics11020017, June 2024

■未掲載論文

1. “Quantitative Convergence Rates for Stochastically Monotone Markov Chains,” (with John Stachurski), Discussion Paper Series, No.DP2024-32, RIEB Kobe University, 12 pp., October 2024

■その他

1. 「社会課題の構造を多元的な視点で解きほぐす」『「知の ENGINE」シリーズ 第 1 回シンポジウムレポート』 14-17 頁 2024 年 8 月
2. 「計算社会科学の発展と可能性：国内外の展開と少子化対策への応用」『「知の ENGINE」シリーズ 第 1 回シンポジウムレポート』 9-11 頁 2024 年 8 月

<学会報告等研究活動>

1. (ファシリテーター)「第一部：次世代災害リスク情報とコミュニケーションパネルディスカッション」『阪神・淡路大震災 30 周年記念シンポジウム「次世代の災害リスク管理と被災者の生活保障 —神戸の教訓と、これから」』神戸大学 (オンライン開催) 2025 年 1 月 17 日
2. (招待講演)「AI 時代の少子化対策：地域間移動と世代間衡平を踏まえて」『日本学術会議第一部会 シンポジウム「超少子高齢社会と人文社会科学の役割」』東北大学 (オンライン開催) 2024 年 8 月 1 日
3. (招待講演)「計算社会科学の発展と可能性：国内外の展開と少子化対策への応用」『【社会課題の構造を多元的な視点で解きほぐす】～数理物理学・計算社会科学から考える共創シンポジウム～』国際文化会館 2024 年 7 月 12 日
4. (招待講演) “Interchanging a Limit and an Integral: With Applications to Continuity and

Differentiability of an Infinite Sum”『慶応義塾大学経済学部附属経済研究所ミクロ経済学ワークショップ』慶応義塾大学 2024年4月19日

<社会活動>

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 計算社会科学会
3. IEFS Japan
4. 数理経済学会

■学会役員

1. 計算社会科学会・副会長（2022年1月～）
2. International Economic Association（国際経済学連合）理事（2021年7月～）
3. 計算社会科学会・理事（2021年3月～）
4. 日本学術会議会員（2020年10月～）
5. IEFS Japan 会長（2019年1月～）
6. 日本経済学会・代議員（2018年6月～2022年5月）

■雑誌編集

1. 査読付学術雑誌「Journal of Computational Social Science」(JCSS) Editor-in-Chief
2. 査読付学術雑誌「International Journal of Economic Theory (Wiley)」 Editor-in-Chief
3. 経済理論専門誌「Economic Theory」の Associate Editor
4. 経済理論専門誌「Economic Theory Bulletin」 Associate Editor
5. 経済理論専門誌「Macroeconomic Dynamics」 Associate Editor
6. 経済理論専門誌「Mathematical Social Sciences」 Associate Editor

■学外委員

1. 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業「ACT-X」研究領域「[AI活用学問革新創成]AI活用で挑む学問の革新と創成」 領域アドバイザー
2. 一般財団法人高度情報科学技術研究機構 利用研究課題審査委員会レビュアー

<受賞>

1. 令和6年度第16回神戸大学学長表彰 財務貢献者 2024年10月

<特許>

「学術論文の査読者検索装置、査読者検索方法、及び査読者検索プログラム」
特願 2020-014904, 特開 2021-121903, 特許番号第 7470369 号, 幸若完壮, 上東貴志,
2020年1月出願, 2021年8月公開, 2024年4月10日登録

教授 北野 重人 (Shigeto KITANO)

- ・ 計算社会科学センター／シミュレーション部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Capital Controls or Macroprudential Regulation: Which is Better for Land Booms and Busts?,” (with Yang Zhou), *Open Economies Review*, Volume 36, pp. 835–871, 2025.

■未掲載論文 (DP/WP)

1. “Effects of Capital Flow Management Measures on Wealth Inequality: New Evidence from Counterfactual Estimators,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2024-30, 60pp., September 2024 (Revised December 2024)

<学会報告等研究活動>

1. (座長) “Session IV: Econometrics,” 2024 Asia-Pacific Symposium on Economics and Finance (The 10th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics), Hanyang University 2024年11月29日
2. (座長) “Session I: Microeconomics,” 2024 Asia-Pacific Symposium on Economics and Finance (The 10th Hanyang-Kobe-Nanyang Conference in Economics), Hanyang University 2024年11月29日
3. (学会コメント) “The rise of robot capital and its impact on international capital flows (Kazuyuki Inagaki)” 日本国際経済学会第83回全国大会 神戸大学 2024年10月6日
4. (セミナー報告) “Effectiveness of Capital Controls: Gates versus Walls,” International Macroeconomics Workshop 金城学院大学 2024年9月21日
5. (学会コメント) “Smart Cities: Digital Solutions to a Green Future (Jiahui Wu et al.),” WEAI 99th Annual Conference (オンライン開催) 2024年6月27日
6. (学会報告) “Commodity Prices, Financial Frictions, and Macroprudential Policies,” WEAI 99th Annual Conference (オンライン開催) 2024年6月27日
7. (学会報告) “Commodity Prices, Financial Frictions, and Macroprudential Policies” 日本金融学会 2024年度春季大会 埼玉大学 2024年5月18日

<社会活動>

■所属学会

1. American Economic Association
2. 日本経済学会
3. 日本金融学会
4. 日本国際経済学会
5. IEFS JAPAN

■学内外委員等

- 1.日本金融学会国際金融部会幹事（2018年～）
- 2.神戸大学金融研究会 幹事（2010年～）

■雑誌編集

1. Japanese Journal of Monetary and Financial Economics,
Co-editor, 2014～2022
2. Singapore Economic Review, Guest Editor, Special
Issue on Challenges Facing the Global Economy, 2025

■学術論文レフリー

1. Journal of Money, Credit, and Banking
2. Journal of International Money and Finance
3. Journal of Macroeconomics
4. Journal of Economics
5. The Manchester School
6. Review of Development Economics
7. Japanese Economic Review
8. Japanese Journal of Monetary and Financial Economics
9. International Economic Journal
10. Japan and the World Economy
11. The B.E. Journal of Macroeconomics
12. Emerging Markets Finance and Trade
13. Economic Modelling
14. Open Economies Review
15. Economics Bulletin
16. Applied Economics Letters
17. Asia-Pacific Financial Markets
18. Economic Systems
19. Applied Economics
20. North American Journal of Economics and Finance

教授 大石 哲 (Satoru OISHI)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
- ・ 都市安全研究センター

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. [Prediction of Spatial Distribution of Debris-Flow Hit Probability Considering the Source-Location Uncertainty](#)
Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi, Kenji Kawaike
Journal of Flood Risk Management 18(1) 2025 年 2 月 17 日
2. [Evaluation of Sentinel-1 Satellite-based Soil Moisture Products for Runoff Modelling with Karst Formation Characteristics](#)
Hanggar Ganara Mawandha1 · Afinafghani Duta Pratama1 · M. Ramadhan Al Ghifari1 · Nasywa Hanin Hanifah1 · Issiami Nursafa1 · Prieskarinda Lestari1 · Satoru Oishi
Water Resources Management (2025) 39:821–846 <https://doi.org/10.1007/s11269-024-03992-9>

<学会報告等研究活動>

■記事 (解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

People's Living Lab (PLL) 大阪万博まるごとシミュレーション (スーパー台風と南海トラフ津波を想定した、大阪万博デジタルツインを使う緊急避難シミュレーション)

「大阪・関西万博会場における、熱中症や高潮の独自シミュレーションによる早期の情報提供」が EXPO2025 アクションプランに採択

- [内閣官房国際博覧会推進本部ホームページ](#)
- [2025 年 大阪・関西万博アクションプラン Ver.3 最先端の科学技術の社会実装・実現 \(67 ページ\)](#)

<社会活動>

■所属学会

1. 国際水圏環境工学研究会 (IAHR)
2. 土木学会
3. 水文・水質源学会
4. 日本気象学会
5. 米国地球物理学学会 (AGU)
6. 米国気象学会 (AMS)
7. 砂防学会

■学会役員

1. 国際水圏環境工学研究会 (IAHR) 水資源マネジメント研究部会 部会長

2. 土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長

■学外委員/チーム

- ・ 理化学研究所 計算科学研究センター 総合防災・減災研究チーム チームリーダー
- ・ 兵庫県武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会座長
- ・ 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会会長
- ・ 静岡県河川審議会会長

<受賞>

1. 令和6年度兵庫県功労者表彰 防災功労部門 受賞 令和6年5月

教授 貝原 俊也 (Toshiya KAIHARA)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
- ・ 大学院システム情報学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. [Prediction of Tumor Growth Using MRI and Cellular Automaton Models Considering Tumor Characteristics](#)
Keisuke Tsukagawa, Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Etsuko Kumamoto
International Forum on Medical Imaging in Asia 2025 IF250090 2025年3月
2. [生産システムシミュレーションにおけるデータ駆動型マルチスケールモデリング手法に関する研究（フローショップ生産システムを対象としたモデル構造整理とモデル同定）](#)
永原 聡士, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 國領 大介
日本機械学会論文集 91(941) 24-00107 2025年1月
3. [Resilient Supply Chain Network Planning Method with Two-Stage Stochastic Programming: Extension to Multiple Product Supply Chains](#)
Toshiya Kaihara, Hibiki Kobayashi, Daisuke Kokuryo, Masashi Hara, Yuto Miyachi, Dickson Hideki Yamao, Puchit Sariddichainunta
IFIP Advances in Information and Communication Technology 729 116-131 2024年9月6日
4. [A PROPOSAL OF PRODUCTION PLANNING METHOD INCLUDING PARTS ALLOCATION CHANGE FOR REALIZATION OF MASS CUSTOMIZATION](#)
Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Shinsuke Tsutsui, Kenichi Harano, Yasuhiro Nomura
International Symposium on Flexible Automation ISFA2024 1-6 2024年7月
5. [二段階確率計画法とラテン超方格サンプリングを用いた強靱なサプライチェーンネットワーク設計手法の一提案](#)
小林 響生, 貝原 俊也, 國領 大介, 藤井 信忠, 渡邊 るりこ, 田中 里奈, 原 昌史, 宮地 優斗, サリッディチャイナター プーチット
システム制御情報学会論文誌 37(5) 127-137 2024年5月

■査読なし論文

1. [A Proposal of Production Planning Method Adapting to Customer Demand Fluctuations with Consideration of Advance Demand Information and Warehouse Constraints](#)
Araki Kawamura, T.Kaihara, D.Kokuryo, H.Mizuhara, T.Umeda, H.Ikeda
The 20th International Conference on Precision Engineering (ICPE2024) OS03-12-OS03-12 2024年10月
2. [A Proposal of Power Operation Planning Method using Stochastic Programming and Integration with Production Planning](#)
Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Ayano Nishikawa
The 20th International Conference on Precision Engineering (ICPE2024) OS03-11-OS03-

11 2024 年 10 月

3. [Toward Data-Driven and Multi-Scale Modeling for Material Flow Simulation: Characteristic Analysis of Modeling Methods](#)
Satoshi Nagahara, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo
Applied Artificial Intelligence 38(1) 1-16 2024 年 6 月 17 日
4. [A Proposal of Dual Resource Constraint Job-shop Scheduling Method combined with Discrete PSO and Stochastic PERT considering Processing Time Uncertainty](#)
Daisuke Kokuryo, Daiki Nagata, Toshiya Kaihara, Toyohiro Umeda, Hoei Mizuhara
Procedia CIRP 130 1462-1467 2024 年
5. [Automatic Measurement of Timber Diameter Using Image Processing](#)
Ryo Yamaguchi, Ruriko Watanabe, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Yasuhiro Sunami
Procedia CIRP 126 44-47 2024 年

■講演（招待講演/基調講演/発表/口頭発表等）

1. 普及への心理的抵抗感を考慮したライドシェア制度導入モデル
平野大智, 貝原俊也, 國領大介
第 37 回社会システム部会研究会（SICE 社会システム部） 2025 年 3 月 15 日
2. エージェントシミュレーションによる観光客の行動特性評価
岡本和樹, 貝原俊也, 國領大介
第 37 回社会システム部会研究会（SICE 社会システム部） 2025 年 3 月 15 日
3. 防災力向上に向けた地域コミュニティ活性化施策の立案のための意思決定支援モデルの一提案 山田竜志, 貝原俊也, 國領大介
第 37 回社会システム部会研究会（SICE 社会システム部） 2025 年 3 月 15 日
4. ウォーカーブル推進都市における回遊行動促進のための行動選択モデルの一提案
井口 拓海, 貝原 俊也, 國領 大介
第 37 回社会システム部会研究会（SICE 社会システム部） 2025 年 3 月 15 日
5. マルチスケール社会シミュレーションを用いた健幸都市政策立案のための意思決定支援
神部尚樹, 貝原俊也, 國領大介
第 37 回社会システム部会研究会（SICE 社会システム部） 2025 年 3 月 14 日
6. 生産システムシミュレーションを用いた生産進捗データ推定手法の一提案
貝原俊也, 國領大介, 伊吹誠彦, 加瀬明子, 岡一廣, 山本郁弥
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2025 2025 年 3 月 4 日
7. マスカスタマイゼーション実現のための最適化手法と動的ペギングによる生産スケジューリング
小川巧真, 貝原俊也, 國領大介, 原野健一, 野村泰弘
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2025 2025 年 3 月 4 日
8. 炭素排出量抑制と需要の不確実性に対応する循環型生産計画手法の一提案

川村新樹, 貝原俊也, 國領大介, 水原宝英, 梅田豊裕, 池田英生, 堀尾明久
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2025 2025 年 3 月 3 日

- 9.工場内物流シミュレーションによる連結機構付き搬送車の事象予測運用評価
貝原俊也, 國領大介, 長澤歩, 山本郁弥, 岡一廣, 加瀬明子
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2025 2025 年 3 月 3 日
- 10.多目的離散型 ABC 法における多様性維持に着目した移動戦略の一検討
原田創太, 國領大介, 貝原俊也
2024 年度計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会シンポジウム 2025 年
1 月 15 日
- 11.フレキシブル・オートメーション
貝原俊也, 諏訪晴彦, 渡部透
第 15 回横幹連合コンファレンス 2024 年 12 月 14 日
- 12.画像フィルタリングによる MR 非侵襲温度計測精度改善手法の一提案
藪井桃矢, 國領大介, 貝原俊也, 熊本悦子
第 67 回自動制御連合講演会 2024 年 11 月 24 日
- 13.生産ライン仮想設計のための製造データ推定手法の一提案 -バックワード/フォワードシ
ミュレーションによる工程リードタイムの推定-
貝原俊也, 國領大介, 伊吹誠彦, 加瀬明子, 岡一廣, 山本郁弥
第 67 回自動制御連合講演会 2024 年 11 月 23 日
- 14.顧客需要の不確実性を考慮したロバスト最適化に基づく循環型生産計画手法の一提案
川村新樹, 貝原俊也, 國領大介, 水原宝英, 梅田豊裕, 池田英生, 堀尾明久
第 67 回自動制御連合講演会 2024 年 11 月 23 日
- 15.マスカスタマイゼーション実現に向けた見込・受注生産混在環境下での動的スケジュー
リング手法の一提案
小川巧真, 貝原俊也, 國領大介, 原野健一, 野村泰弘
第 67 回自動制御連合講演会 2024 年 11 月 23 日
- 16.社会共創デザインのためのデジタル社会実験基盤技術
貝原俊也, 寺野隆雄, 喜多一
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演 2024 (SSI2024) 2024 年 11 月 14 日
- 17.マルチスケール社会シミュレーションを用いた健康都市政策の意思決定支援~政策立案
のためのマイクロ・マクロ連携モデルの有効性評価~
神部尚樹, 貝原俊也, 國領大介
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2024 (SSI2024) 2024 年 11 月 14 日
- 18.ABSS を用いたステークホルダ間の関係性を考慮したライドシェア制度設計手法の一検
討
平野大智, 貝原俊也, 國領大介
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2024 (SSI2024) 2024 年 11 月 14 日
- 19.Radiomics 特微量を適用したセルオートマトンモデルに基づく腫瘍領域の時間発展予測

手法の一提案

塚川景介, 國領大介, 貝原俊也, 熊本悦子

生体医工学シンポジウム 2024 2024 年 9 月 14 日

20. マルチスケール社会シミュレーションを用いた地域活性化のための政策立案支援～自治体の財政マクロモデルと市民の歩行ミクロモデルの連携～
神部尚樹, 貝原俊也, 國領大介
第 36 回社会システム部会研究会 (SICE 社会システム部) 2024 年 9 月 1 日
21. 地域特性を考慮した ABSS によるライドシェア制度設計手法の一検討
平野大智, 貝原俊也, 國領大介
第 36 回社会システム部会研究会 (SICE 社会システム部) 2024 年 9 月 1 日
22. 防災力向上のための地域コミュニティ活性化施策評価を対象とする ABSS モデルの一検討
山田竜志, 貝原俊也, 國領大介
第 36 回社会システム部会研究会 (SICE 社会システム部) 2024 年 9 月 1 日
23. SPD (Societal Prototyping Design): Digital social experimentation platform to enable human-centered societal co-creative design
Toshiya Kaihara
International Conference on Management in Emerging Markets (ICMEM) 2024 2024 年 8 月 28 日
24. 生産ライン仮想設計のための製造データ推定手法の一提案
貝原俊也, 國領大介, 伊吹誠彦, 加瀬明子, 岡一廣, 山本郁弥
精密工学会 2024 年度関西地方定期学術講演会 2024 年 6 月 21 日
25. 見込・受注生産混在環境下でのマスカスタマイゼーション実現に向けた動的スケジューリング手法の一提案
小川巧真, 貝原俊也, 國領大介, 原野健一, 野村泰弘
精密工学会 2024 年度関西地方定期学術講演会 2024 年 6 月 21 日
26. 複数木口画像を対象とした画像処理による木材計測手法に関する研究
山口 凌央, 藤井 信忠, 渡邊 俊介, 宗 剛秀, 國領 大介, 貝原 俊也, 渡邊 るりこ, 角南 泰弘
第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 26 日
27. 人間中心による未来社会の共創的デザインを目指して～デジタル社会実験による都市制作の実現～(1)
貝原 俊也
第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 26 日
28. 需要の不確実性に対応する内示情報を活用した生産計画手法の一検討～外部倉庫制約のある環境を対象に～
川村 新樹, 貝原 俊也, 國領 大介, 水原 宝英, 梅田 豊裕, 池田 英生
第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 25 日
29. MR 画像を用いたセルオートマトンモデルに基づく腫瘍領域の時間発展予測手法の一提案
塚川 景介, 國領 大介, 貝原 俊也, 熊本 悦子

第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 25 日

30.クラウドソースドマニュファクチャリング環境下における組合せダブルオークションを用いた長期的リソース配分手法に関する特性評価

國領 大介, 貝原 俊也, 栗本 健介

第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 25 日

31.組合せオークションを用いた来街者の回遊性向上に関する研究

道下 朝陽, 藤井 信忠, 渡邊 俊介, 宗剛 秀, 國領 大介, 貝原 俊也, 渡邊 るりこ, 田中 真一

第 68 回システム制御情報学会研究発表講演会 (SCI' 24) 2024 年 5 月 24 日

<社会活動>

■所属学会

1. IFAC (International Federation of Automatic Control)
2. 日本工学アカデミー
3. サービス学会
4. CIRP (Collège International pour la Recherche en Productique)
5. IFIP (International Federation of Information Processing)
6. IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers)
7. 日本設備管理学会
8. スケジューリング学会
9. 経営情報学会
10. 日本オペレーションズリサーチ学会
11. 計測自動制御学会
12. システム制御情報学会
13. 電気学会
14. 精密工学会
15. 日本機械学会

■学会役員・委員

2020 年 7 月 - 現在 日本工学アカデミー, 会員

2020 年 4 月 - 現在 精密工学会, 代議員

2018 年 4 月 - 現在 日本機械学会, 生産システム部門 部門長 (2018-2019), フェロー (2019-)

2015 年 5 月 - 現在 電気学会, 電子・情報・システム部門システム技術委員会 委員長(2015-2021), フェロー(2022-)

2012 年 8 月 - 現在 国際生産工学アカデミー (CIRP), 会員 (2012-2020), フェロー (2020-)

2007 年 8 月 - 現在 日本学術会議, 自動制御の多分野応用小委員会 委員

■受賞

1.2024 年 10 月 学長表彰, 神戸大学

2.2024 年 3 月 精密工学会功労賞, 公益社団法人 精密工学会

教授 横川 三津夫 (Mitsuo YOKOKAWA)

- ・ 計算科学研究センター/シミュレーション部門
- ・ 大学院システム情報学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “File I/O Cache Performance of Supercomputer Fugaku Using an Out-of-Core Direct Numerical Simulation Code of Turbulence”
Yuto Hatanaka, Yuki Yamane, Kenta Yamaguchi, Takashi Soga, Akihiro Musa, Takashi Ishihara, Atsuya Uno, Kazuhiko Komatsu, Hiroaki Kobayashi, Mitsuo Yokokawa
Computational Science – ICCS 2024 173-187 2024 年 6 月 30 日
2. “An Asymptotic Parallel Linear Solver and Its Application to Direct Numerical Simulation for Compressible Turbulence”
Mitsuo Yokokawa, Taiki Matsumoto, Ryo Takegami, Yukiya Sugiura, Naoki Watanabe, Yoshiki Sakurai, Takashi Ishihara, Kazuhiko Komatsu, Hiroaki Kobayashi
Computational Science – ICCS 2024 383-397 2024 年 6 月 27 日 筆頭著者

<社会活動>

■所属学会

1. 一般社団法人日本流体力学会
2. 一般社団法人情報処理学会

■学外委員

1. 理化学研究所計算科学研究センター・客員主管研究員
2. インダストリスパコン推進センター アドバイザー

教授 佐野 英樹 (Hideki SANO)

- ・ 計算社会科学センター/シミュレーション部門
- ・ 大学院システム情報学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Observers for hyperbolic systems with multiple delays in the nonlocal boundary condition and its application to secure image encryption”
Hideki Sano, Jeanne Redaud
Systems & Control Letters 190 105855-105855 2024 年 8 月
2. “Synchronization of chaotic hyperbolic PDE systems for image encryption using backstepping observer design”
Jeanne Redaud, Hideki Sano
Proceedings of the 2024 European Control Conference 376-381 2024 年 6 月
3. “Numerical analysis of a chaotic coupled hyperbolic PDE system for secure image encryption
Jeanne Redaud, ”
Hideki Sano
IFAC-PapersOnLine 58-5 (Proceedings of the 7th IFAC Conference on Analysis and Control of Nonlinear Dynamics and Chaos) 138-143 2024 年 6 月

<学会報告等研究活動>

■講演・口頭発表等

1. 変分埋め込み法を用いた SIR カトリエルモデルの係数決定
小池 竜太郎, 佐野 英樹
第 67 回自動制御連合講演会 2024 年 11 月 24 日

<社会活動>

■所属学会

1. The Mathematical Society of Japan
2. The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
3. The Society of Instrument and Control Engineers
4. The Institute of Systems, Control and Information Engineers
5. 日本数学会
6. 日本応用数理学会
7. 計測自動制御学会
8. システム制御情報学会

教授 西谷 公孝 (Kimitaka NISHITANI)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【著書（分担執筆）】

1. 「サステナブル経営を実現する企業価値評価」西尾チヅル・上林憲雄編著『サステナブル経営－原理・潮流・実践－』同文館出版 第III部第6章 159-178頁 2025年1月

【論文】

■レフェリー付論文

掲載済

1. “Bridging the gap between legitimacy and voluntary disclosure theory and current corporate non-financial reporting practices: Insights from Japanese companies,” (coauthored with Park, J.D., and Haider, M.B.), Business Strategy and the Environment, Vol.34, Issue 2, pp.2449-2468, February 2025
2. “Does the economic motivation of firms to address the United Nations’ Sustainable Development Goals (SDGs) promote the SDGs or merely SDG-washing? Critical empirical evidence from Japan and Vietnam,” (coauthored with Nguyen, T.B.H. and Kokubu, K.), Review of Managerial Science, Vol.19, Issue 2, pp.415-465, February 2025

■未掲載論文(DP/WP)

1. “Can Sustainable Consumption and Production Solve the Dilemma of Corporate Environmental Responsibility and Economic Performance? An Empirical Analysis of Japanese-listed Companies from the Stakeholder Management Perspective,” (coauthored with Yin, T.), RIEB Discussion Paper Series, DP2024-27, 34pp., August 2024

【その他】

1. 「中小企業にとってもきっかけさえあれば脱炭素経営は推進できる」『信金中金月報』第24巻第2号 73頁 2025年2月

<社会活動>

■所属学会

1. 環境経済・政策学会
2. 日本社会関連会計学会
3. 日本LCA学会
4. 日本会計研究学会

<国際交流活動>

- ・ 「環境情報開示の日米比較研究」國部克彦（神戸大学）、Jin Dong Park（タウソン大学）と共同研究

- ・「日本・ドイツ企業における経営管理と環境マネジメントの関係に関する国際比較研究」 國部克彦（神戸大学）、梶原武久（神戸大学）、北田皓嗣（法政大学）、Thomas Guenther（ドレスデン工科大学）、Edeltraud Guenther（国連大学）他と共同研究
- ・「アジアにおける企業の環境経営モデルの展開とステークホルダーによる導入支援方策に関する研究」 國部克彦（神戸大学）、Nguyen Thi Bich Hue（貿易大学）、Pakpong Pochanart（National Institute of Development Administration）他と共同研究

<産官学連携>

- ・ダイセル・神戸大学包括連携「再生材に対する消費者意識とBtoB企業の価値創造に関する社会科学的な総合研究」（2023年度～2024年度）（研究代表者）
- ・信金中央金庫：「信用金庫取引先（中小企業）における脱炭素の取組み」（2023年8月～2025年3月）（研究参加者）
- ・尼崎信用金庫：「ESG要素を考慮した事業性評価の深化を通じた地域における事業者視線体制構築の推進」（2022～2024年度）（研究参加者）

教授 中川 丈久 (Takehisa NAKAGAWA)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
- ・ 大学院法学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. 行政調査論の再考
中川 丈久
神戸法学年報 (35) 3-80 2025 年 3 月
2. 「A I 技術の応用と法的課題」に関する各報告へのコメント
中川 丈久
立命館国際地域研究 (59) 63-72 2024 年 10 月
3. 行政法解釈・憲法・憲法解釈〔要旨版〕
中川 丈久
公法研究 (85) 22-44 2024 年 10 月
4. 行政法解釈・憲法・憲法解釈〔完全版〕
中川 丈久
神戸法学雑誌 74(2) 1-52 2024 年 10 月
5. 公的規制のエコシステム
中川 丈久
法律時報 96(11) 65-70 2024 年 9 月
6. 行政手法を用いた消費者法の将来像——安全・取引・表示——
中川 丈久
現代消費者法 (64) 51-60 2024 年 9 月
7. 消費者行政法の将来像
中川 丈久
法の支配 214 86-98 2024 年 8 月
8. 日本におけるルールメイキングとロビイング
中川 丈久
法律時報 96(9) 6-12 2024 年 8 月

<学会報告等研究活動>

■報告（学会報告/会議報告）

1.個人情報保護法における法執行の強化について

中川 丈久

第 283 回個人情報保護委員会 2024 年

<社会活動>

■所属学会

1. 日本消費者法学会
2. 日米法学会
3. 日本公法学会

■学会役員

1. 日本消費者法学会・理事
2. 日米法学会・理事

■雑誌編集

1. 民商法雑誌 編集委員

■学外委員

1. 消費者庁・消費者安全調査委員会（“消費者事故調”）委員長（2018年10月～）
2. 文部科学省 中央教育審議会・法科大学院等特別委員会・委員（2019年6月～）
3. 文部科学省 教科用図書検定調査審議会・臨時委員（2020年4月～）
4. 兵庫県行政不服審査会・会長
5. 兵庫県情報公開・個人情報保護審査会・会長
6. 兵庫県本人確認情報保護審議会・会長
7. 豊中市情報公開・個人情報保護審査・委員

教授 栗木 契 (Kei KURIKI)

- ・ 計算社会科学センター/データ分析部門
- ・ 大学院経営学研究科

研究活動

<研究業績>

【書籍・出版物】

1. エフェクチュアル・シフト不確実性に企業家的機会を見いだすマーケティングの探求
栗木契
千倉書房 2024年6月 (ISBN: 4805113154)

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. エフェクチュエーションを、いかに組織に取り入れるか
栗木契
季刊ひょうご経済 165 12-13 2025年1月
2. 不確実性との向き合い方を見直すエフェクチュエーションが迫るシフト
栗木契
月刊先端教育 (2024年12月号) 28-29 2024年12月
3. エフェクチュアル・マーケティングの可能性はどこにあるか？
栗木契
季刊ひょうご経済 164 12-13 2024年10月
4. クイックコマースの可能性
栗木契
BtoB コミュニケーション 一般社団法人日本 BtoB 広告協会 651 11-16 2024年9月
5. 不確実性の中に企業家的機会を見いだすマーケティング
栗木契
季刊ひょうご経済 163 12-13 2024年7月
6. わらしべ長者は、企業家マーケティングを実践していた？
栗木契
季刊ひょうご経済 162 12-13 2024年4月
7. なぜ起業や新規事業立ち上げの達人は「失敗を責めたり悔やんだりしない」のか？
一流アントレプレナーに学ぶトラブルの“有効活用”
栗木契
まぐまぐニュース 2024年4月

【その他】

President Online2024

- 1 なぜ「社員 70 人」のデザイン会社と手を組んだのか
ダメ出しされても「AI のせい」にできる…「お〜いお茶」が商品デザイン数百案を AI に任せ「納期短縮」以上の効能 2024/10/20
2. 地方出店で見つけた「生活圏」の新たな可能性
ヨーカドーの跡地が「世界最大級の無印良品」に…過疎地の商業モールを復活させた「社会的品揃え」の魅力【2024 上半期 BEST5】 2024/08/18
3. "競合"のウーバーや出前館も提携する理由
ヨーカドーの商品 7000 点が最短 30 分で届く…ネットスーパー最大の欠点を解消した「鬼速の OniGo」のカラクリ 2024/07/28
4. 地方出店で見つけた「生活圏」の新たな可能性
ヨーカドーの跡地が「世界最大級の無印良品」に…過疎地の商業モールを復活させた「社会的品揃え」の魅力 |2024/05/11

<学会報告等研究活動>

■研究会

現代経営学研究所 研究会 2024 年度

1. 「エフェクチュアル・シフト輪読会 担当：栗木契教授」
 - 2024/11/21 なぜ、エフェクチュアル・シフトか（はじめに、第 1 章）
 - 2024/11/28 無限後退問題とマーケティング（第 2 章）
 - 2024/12/12 マーケティング・リサーチがもたらすイノベーションの活性化（第 3 章）
 - 2024/12/19 イノベーションを導くための行動のミックス（第 4 章）
 - 2025/ 1/9 企業家が直面する不確実性というリソース（第 5 章）
 - 2025/ 1/16 失敗がなぜ、どのようにしてリソースとなるか（第 6 章）
 - 2025/ 1/30 事業創造に限定されないエフェクチュエーション（第 7 章）
2. 「プレ神戸大学 MBA 勉強会 第 5 期 講師/コーディネータ：栗木契教授」
 - 第 1 回（2024/10/17）マーケティング・技術経営 栗木 契教授
 - 第 2 回（2024/10/24）財務・会計・ファイナンス 清水泰洋教授
 - 第 3 回（2024/10/31）組織論・戦略論 栗木 契教授
 - 第 4 回（2024/11/ 7）ビジネスエコノミクス・経営倫理 栗木 契教授
3. 「プレ神戸大学 MBA 勉強会 第 4 期 担当講師：栗木契教授」
 - 第 1 回（2024/7/ 4）第 1・2 章 俯瞰力と探求力の養成・理論とのほどよい付き合い方

第2回 (2024/7/11) 第3・4章 事例に学ぶ知識獲得の有用性・統計学的にデータと向き合う

第3回 (2024/7/18) 第6・7章 ビジネス学習のためのケーススタディ・ロジカルライティング

第4回 (2024/7/25) 第8・9章 ビジネスモデルの描き方・歴史に学ぶ意義

<社会活動>

■所属学会

1. 日本商品学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 組織学会
4. 日本商業学会
5. 日本マーケティング学会
6. 日本経営学会

■学会役員

1. 日本消費者行動研究学会副会長
2. 日本商事学会幹事
3. 日本マーケティング学会理事

■雑誌編集

1. 消費者行動研究 (日本消費者行動研究学会) 副編集長
2. 一橋ビジネスレビュー編集委員

■学外営利企業の役員

1. 株式会社碩学舎取締役

教授 小林 照義 (Teruyoshi KOBAYASHI)

- ・ 計算社会科学研究センター/データ分析部門
- ・ 大学院経済学研究科

研究活動

<研究業績>

【論文】

■掲載論文（査読なし）

1. [モビリティネットワークの高密度化におけるスケーリング則](#)
甲斐田 裕清, 荻巣 嘉高, 小林 照義
計算社会科学 3 2024 年 6 月
2. “[Heterogeneous Inflation Volatility in Production Networks: Producer vs. Consumer Prices](#),” with Kohei Hasui, Sep 2024.

<学会報告等研究活動>

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. Network Science Society
4. 計算社会科学会

■学会役員

1. 計算社会科学会理事（2022 年 1 月～）

■雑誌編集・ジャーナル編集・査読

1. PLOS ONE, Academic Editor（2018 年～）
2. [Program Committee, NetSci 2025](#)（2024 年 11 月）
3. [Program Committee, NetSci 2024](#)（2024 年）
4. [Program Committee, CCS 2024](#)（2024 年）
5. [Program Committee, NetSci-X 2024](#)（2024 年）
6. [Associate Editor, Advances in Complex Systems](#)（2024 年 11 月～）

教授 柴本 昌彦 (Masahiko SHIBAMOTO)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Identifying Quantitative and Qualitative Monetary Policy Shocks,” (with Kiyotaka Nakashima and Koji Takahashi), International Journal of Central Banking, Volume 20, No.3, pp.1-61, July 2024

■掲載論文 (査読なし)

□未掲載論文(DP/WP)

1. “Identification of Relationship Lending in Bank-Borrower Networks,” (with Yoshitaka Ogisu and Shoka Hayaki), RIEB Discussion Paper Series No.DP2025-02, Kobe University, February 2025

【その他】

1. 「今が環境問題に対して本気で取組む時である」『信金中金月報』第 24 巻第 2 号 74 頁 2025 年 2 月
2. 「専門家意見 インフレ環境下の中小企業：現状と課題」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2024 年 12 月度調査レポート』2 頁 2025 年 1 月
3. 「専門家意見 『サステナビリティ経営』を実践するために」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2024 年 10 月度調査レポート』2 頁 2024 年 11 月
4. 「金融正常化の評価と課題 日銀は国民・市場と意思疎通を」『昭和経済』第 75 巻 10 号 42-47 頁 2024 年 10 月
5. 「金融正常化の評価と課題 (下) 日銀、国民・市場と意思疎通を」『経済教室』日本経済新聞 2024 年 8 月 22 日
6. 「専門家意見」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2024 年 6 月度調査レポート』2 頁 2024 年 6 月

<学会報告等研究活動>

1. (報告)「マクロ金融政策の時系列分析: レビュー」神戸大学金融研究会 3 月例会 ザ マーカスクエア神戸 2025 年 3 月 15 日
2. (報告) “Challenges in Computational Social Science Research in Japan,” The 2nd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, University of Amsterdam 2025 年 3 月 6 日

3. (討論者) “Macroeconomic Effects of Unconventional Monetary Policy in Japan: An Analysis Using Narrative Sign Restrictions” (新谷 元嗣) 日本経済学会 2024 年度秋季大会 福岡大学 2024 年 10 月 20 日
4. (座長) 「地域とネットワークのマクロ実証」 日本経済学会 2024 年度秋季大会 福岡大学 2024 年 10 月 19 日
5. (討論者) “Global Supply Chain Disruptions, Commodity Price Shocks and Macroeconomic Fluctuations in Japan” (王芮) 日本経済学会 2024 年度秋季大会 福岡大学 2024 年 10 月 19 日
6. (座長) 「中央銀行パネル 学界における日本銀行の金融政策に関する多角的レビュー」 日本金融学会 2024 年度秋季全国大会 沖縄コンベンションセンター 2024 年 10 月 13 日
7. (報告) 「学会員の研究課題からみた日本金融学会の活動の変遷」 日本金融学会 2024 年度秋季全国大会 沖縄コンベンションセンター 2024 年 10 月 12 日
8. (報告) 「現代日本の貨幣から—レスポンス」 RIEB セミナー 神戸大学 2024 年 8 月 5 日
9. (報告) 「現代日本の貨幣から」 ワークショップ「貨幣再考：学際的アプローチ」 神戸大学 2024 年 8 月 4 日
10. (報告) “Inflation, Business Cycle, and Monetary Policy: The Role of Inflationary Pressure” 日本金融学会 2024 年度春季大会 埼玉大学 2024 年 5 月 18 日

<社会活動>

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. American Economic Association
4. Western Economic Association International
5. Royal Economic Society
6. Econometric Society
7. International Association for Applied Econometrics

■雑誌編集

1. *Journal of the Japanese and International Economies (2)*
2. *Asian Economic Journal*
3. *Japanese Economic Review (2)*
4. *Japan and the World Economy*
5. *Asia-Pacific Financial Markets*
6. *Macroeconomic Dynamics*
7. *Review of Development Economics*

■参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（「気候適応史料プロジェクト」）

■メディア掲載など

コメント「約4割が資金繰りについて『今後支障がでてくる』前回調査から大幅増、大同生命保険の中小企業経営者アンケート約4割が資金繰りについて「今後支障が出てくる」『OVO』（2024年8月1日付）

<国際交流活動>

1. 「Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy」Kenneth N. Kuttner (Williams College) との共同研究

<産官学連携>

1. 共同研究

信金中央金庫：「信用金庫取引先（中小企業）における脱炭素の取り組み」（2023年8月～2025年3月）（研究参加者）

特命教授 西村 和雄 (Kazuo NISHIMURA)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【書籍】

1. 『学力と幸福の経済学』（八木匡と共編著）324頁 日経 BP 日本経済新聞出版
2024年4月

【論文】

■レフェリー付論文

1. 「学力向上と格差解消：大阪市のSESデータを利用した実証分析」（八木匡，古閑龍太郎，岩澤政宗，谷口璃華と共著）Journal of Quality Education, Vol.14, pp.1-18 2025年3月
2. “Expectations, beliefs and the business cycle: tracing back to the deep economic drivers,” (with Frédéric Dufourt and Alain Venditti), Economic Theory, Vol.79, Issue 1, pp.89-149, February 2025
3. “Knowledge-based structural change,” (with Kevin Genna, Christian Ghiglini and Alain Venditti), Economic Theory, Vol.78, Issue 4, pp.1333-1388, December 2024
4. “A dynamic theory of the Balassa-Samuelson effect: Why has the Japanese economy stagnated for over 30years?,” (with Harutaka Takahashi and Alain Venditti), Communications in Optimization Theory, Vol.2024, Article ID 34, pp.1-12, June 2024
5. “Business cycles endogenous fluctuations in three-sector intertemporal equilibrium models,” (with Florian Pelgrin and Alain Venditti), Journal of Economic Theory, Journal of Economic Theory, Vol.226, Article 106010. May 2025

■ディスカッションペーパー

1. 「学力向上と格差解消：大阪市のSESデータを利用した実証分析」（八木匡，古閑龍太郎，岩澤政宗，谷口璃華と共著）RIEB Discussion Paper Series No.2024-J10 2024年12月

<学会報告等研究活動>

■記事(メディア掲載/解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

1. VIEW next (ベネッセ) 高校版 インタビュー記事「人生の幸福感を高める『自己決定』を学校の中にどう取り入れるか」(2024年10月15日付、23-25頁)
2. 宣伝会議 インタビュー記事「日本人の労働生産性の向上に不可欠な教育の質 学力向上を目指し教育現場の改革に尽力—西村和雄の広告観」(2024年9月号、37-39頁)

<社会活動>

■所属学会

1. International Society of Difference Equations

- 2.Society for the Advancement of Economic Theory (SAET) 2020～ Economic Theory Fellow
- 3.International Engineering and Technology Institute 2015～ Distinguished Fellow
- 4.Econometric Society 1992～ Fellow of the Econometric Society
- 5.日本経済学会（理論計量経済学会）
- 6.日本経済学教育協会（経済学検定試験実施）2002～ 会長
- 7.国際教育学会 2006～ 会長
- 8.日本数学協会

■雑誌編集

- 1.*Taiwan Journal of Applied Economics*, Member of the Honorary International Editorial Advisory Board,2017-
- 2.*Neuroscience Communications*, Smart Science & Technology, Member of Editorial Board, 2015-
- 3.*International Journal of Economic Theory*, Basil Blackwell, Managing Editor, 2004-
- 4.*Brazilian Journal of Business Economics*, Catholic University of Brasilia, Member of Advisory Board,February 2012-
- 5.*Chaos, Solitons and Fractals*, Pergamon Press, Member of Editorial Board, 1990-
- 6.*Journal of Reviews on Global Economics*, Lifescience Global, Member of Editorial Board, 2012-
- 7.*Journal of Macroeconomics*, Elsevier, Member of Editorial Board, 2003-
- 8.*Journal of Economic Development*, Chung Ang University, Member of Editorial Board, 1997-
- 9.*International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations*, Nova Science Publishers, Member of Editorial Board, 2006-
- 10.*Mathematical Social Sciences*, North-Holland, Member of Editorial Board
- 11.*Review of International Economics*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 1997-
- 12.*Seoul Journal of Economics*, Seoul University, Member of Editorial Board, 1996-
- 13.*Theoretical Economics Letters*, Scientific Research Publishing, Member of the Editorial Board, April 2011-

■学外委員その他

- 2017～ 大阪市教育委員会 顧問
- 2013～ 総合診断医療研究会 名誉顧問
- 2012～ 高等教育国際基準協会 名誉顧問
- 2012～ 日本学士院会員
- 2005～ NPO これからの教育を考える会理事

<国際交流活動>

- 1.経済発展と技術導入に関する研究
ワシントン大学 Ping Wang、神戸大学 胡云芳 関西学院大学 國枝卓真(2020 年度～)

2. 経済動学に関する研究

Alain Venditti、AMSE (Aix-Marseille 経済大学) (2020 年度—)

<産官学連携>

・共同研究

産業技術総合研究所・京都大学：「脳活動計測を用いた人間の思考・行動特性の神経経済学的研究」(2014 年 5 月～2025 年 3 月) (研究代表者)

特命教授 チャールズ・ユウジ ホリオカ
(Charles Yuji Horioka)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “The Impact of Intergenerational Transfers on the Distribution of Wealth: An International Comparison,” *Pacific Economic Review*, 29(5), 567-585, December 2024
2. “Editor’s Introduction to the Special Issue on ‘Intergenerational Linkages in Asia’,” (co-authored with Akihisa Shibata), *Pacific Economic Review*, 29(5), 533-534, December 2024
3. “The Feldstein-Horioka Puzzle or Paradox after 44 years: A fallacy of composition,” *The Japanese Economic Review*, 75(3), 383-404, July 2024

■未掲載論文

1. “Household Saving in Japan: The Past, Present, and Future,” *RIEB Discussion Paper Series*, DP2024-36, 32pp., November 2024
2. “Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey,” (co-authored with Luigi Ventura), *RIEB Discussion Paper Series*, DP2024-26, 28pp., August 2024
3. “The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan,” (co-authored with Emin Gahramanov and Xueli Tang), *RIEB Discussion Paper Series*, DP2024-24, 37pp., July 2024
4. 「44年後の『フェルドスタイン・ホリオカ・パズル（パラドックス）』：合成の誤謬」 *RIEB Discussion Paper Series*, DP2024-J05 29pp. 神戸大学経済経営研究所 2024年5月

<学会報告等研究活動>

1. (座長) Plenary Session: The Global Economy and Productivity Analysis, The 8th World KLEMS Conference, (The International House of Japan, Tokyo), March 27-28, 2025
2. (幹事・座長) International Association for Research in Income and Wealth (IARIW)-Hitotsubashi University Conference on “Population Ageing: Implications for Economic Measurement and Economic Performance”, (The International House of Japan, Tokyo), March 24-25, 2025
3. (講演) 「45年後のフェルドスタイン・ホリオカ・パズル（パラドックス）：合成の誤謬」佐藤ワークショップ（佐藤隆三教授 (New York University) 主催、オンライン開催） 2025年2月8日
4. (討論者) “Aging and Sustainability of Pension,” (by Philip O’keefe), Third Review Workshop

on Background Papers, Asian Development Bank (ADB)-Development Research Council (DRC) High-Quality Development Project, (オンライン開催), January 10, 2025

5. (閉会の挨拶) “Concluding Remarks,” National Transfer Accounts (NTA) Workshop, (National Institute of Population and Social Security Research, Tokyo), December 4, 2024
6. (招待講演) “The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan,” (co-authored with Emin Gahramanov and Xueli Tang), Seminar in Macroeconomics, (Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, Tokyo), December 3, 2024
7. (招待講演) “Why Do Europeans Save? On the Importance of Retirement Saving,” (co-authored with Luigi Ventura), Fondation France Japon (FFJ) - Banque de France Workshop on “Economics of Ageing: Macroeconomics and Economic Policy, Lessons from the Japanese Experience”, (Canon Institute for Global Studies (CIGS), Tokyo), December 2, 2024
8. (基調講演) “The Role of Finance in Mitigating and Overcoming the Demographic Crisis,” Institute for Global Economics (IGE) - KB Financial Group International Conference: 2024 Sustainability Global Summit, (Conrad Seoul Hotel, Seoul, Korea), November 21, 2024
9. (報告) “Fertility-boosting Pensions for Developed Countries: A Modest Policy Proposal,” (co-authored with Debasis Bandyopadhyay and Xueli Tang), 19th East Asian Economic Association (EAEA) International Conference “Globalisation and Resilience in Asia: Path to Innovation, Inclusiveness and Sustainable Development”, (Millennium Hilton Bangkok, Thailand), November 2, 2024
10. (討論者) “Does sudden asylum seeker influx make native hosts more hostile? Quasi-experimental evidence from South Korea,” (by Seonho Shin), 19th East Asian Economic Association (EAEA) International Conference “Globalisation and Resilience in Asia: Path to Innovation, Inclusiveness and Sustainable Development”, (Millennium Hilton Bangkok, Thailand), November 2, 2024
11. (座長) Topic / Theme: Poverty, 19th East Asian Economic Association (EAEA) International Conference “Globalisation and Resilience in Asia: Path to Innovation, Inclusiveness and Sustainable Development”, (Millennium Hilton Bangkok, Thailand), November 2, 2024
12. (招待講演) “Consumption and Saving in Japan: Lessons for China,” Asian Development Bank Online Seminar on Household Consumption in the People’s Republic of China, (オンライン開催), October 11, 2024
13. (招待講演) “Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey,” (co-authored with Luigi Ventura), Fondation France-Japon de l’EHESS-Banque de France Third Expert Group Meeting on “Economics of Ageing”, (Maison Suger, Paris, France), October 4, 2024
14. (パネリスト) 第 81 回 ESRI 政策フォーラム (内閣府経済社会総合研究所主催、オンライン開催) 2024 年 10 月 3 日
15. (招待講演) 「ストックの力で豊かさを感じられる経済に向けてー令和 6 年度経済財政白書から」第 81 回 ESRI 政策フォーラム (内閣府経済社会総合研究所主催、オンライン開催) 2024 年 10 月 3 日

16. (招待講演) “Do the Retired Elderly in Europe Decumulate Their Wealth? The Importance of Bequest Motives, Precautionary Saving, Public Pensions, and Homeownership,” (co-authored with Luigi Ventura), Innovative Aging: Economic Vitality Amidst Demographic Aging, (Consulate of Switzerland in Japan, Osaka), September 16, 2024
17. (座長) Session 7D-1, Productivity/Investment, 38th International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) General Conference, (King’s College London, London, England), August 30, 2024
18. (講演) “The Nexus between Long-term Care Insurance, Formal Care, Informal Care, and Bequests: The Case of Japan,” (co-authored with Emin Gahramanov and Xueli Tang), 38th International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) General Conference, (King’s College London, London, England), August 30, 2024
19. (講演) “Why Do Europeans Save? Micro-Evidence from the Household Finance and Consumption Survey,” (co-authored with Luigi Ventura), Institute of Economics Lecture, Academia Sinica, (Institute of Economics, Academia Sinica, Taipei, Taiwan), August 16, 2024
20. (幹事・座長) NBER Japan Project Meeting 2024, (Asian Development Bank Institute, Tokyo), July 30-31, 2024
21. (講演) “Household Saving in Japan: The Past, the Present, and the Future,” The Oxford Handbook of the Japanese Economy Conference, (Kojima Conference Hall, Economics Research Annex (Kojima Hall) 2F, The University of Tokyo, Hongo Campus, Tokyo), July 29, 2024
22. (招待講演) “The Saving Behavior of the Elderly in Japan and Europe,” Fondation France-Japon (FFJ)-Banque de France Workshop on “Economics of Ageing: Macroeconomics and Economic Policy, Lessons from the Japanese Experience”, (Campus Condorcet, Aubervilliers, France), June 14, 2024
23. (報告) “Fertility-boosting Pensions for Developed Countries such as Japan: A Model Policy Proposal,” (co-authored with Debasis Bandyopadhyay and Xueli Tang), 2024 Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO), (organized by Singapore Management University), (Raffles City Convention Centre, Singapore), May 28, 2024
24. (討論者) 「量的緩和政策の下での Search for Yield と Home Bias」 (報告者 田中博也) 日本経済学会 2024 年度春季大会 東京経済大学 2024 年 5 月 25 日
25. (座長) 「財政金融政策」日本経済学会 2024 年度春季大会 東京経済大学 2024 年 5 月 25 日

<社会活動>

■所属学会

1. Econometric Society
2. International Association for Research in Income and Wealth
3. Society of Economics of the Household
4. アメリカ経済学会 (American Economic Association)
5. 全米経済研究所 (National Bureau of Economic Research)
6. 王立経済学会 (Royal Economic Society)

- 7.日本経済学会
- 8.東京経済研究センター
- 9.東アジア経済学会 (East Asian Economic Association)

■学会役員

- 1.International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) 会長 (2024年8月～)
- 2.日本経済学会 会長 (2023年5月～2024年5月)
- 3.International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) 次期会長・会計担当理事 (President-Elect and Treasurer) (2022年8月～2024年8月)
- 4.President, Society of Economics of the Household (2021年5月～2023年6月)
- 5.日本経済学会 若手研究支援・男女共同参画委員会委員 (2021年4月～)
- 6.Council Member, International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018年8月～)
- 7.Program Committee, General Conference of the International Association for Research in Income and Wealth (IARIW) (2018年8月～)
- 8.Member, Executive Committee, Society of Economics of the Household (SEHO) (2017年6月～)
- 9.Board Member, Society of Economics of the Household (SEHO) (2017年6月～2024年5月)
- 10.Scientific Committee, Annual Meeting of the Society of Economics of the Household (SEHO) (2017年6月～)
- 11.Co-organizer, National Bureau of Economic Research (NBER) Japan Project Meeting (2004年～)
- 12.Research Associate, National Bureau of Economic Research (1987年～)

■学外委員

- 1.Guest Editor, Pacific Economic Review (2024年12月)
- 2.執行委員会委員・研究委員会委員、慶應義塾大学経済研究所パネルデータ設計・解析センターJPSC (消費生活に関するパネル調査) 部門 (2019年～)
- 3.公益財団法人アジア成長研究所 理事 (2017年～)
- 4.広島大学医療経済研究拠点・拠点アドバイザー (2016年～)
- 5.(公財) 日本国際問題研究所 太平洋経済協力会議 (PECC) 日本委員会委員 (2015年～)

■雑誌編集

- 1.Editorial Board member, Eurasian Economic Review (2019年～)
- 2.Editorial Member, Journal of Business and Economic Analysis (2019年～)
- 3.Editorial Board member, Review of Income and Wealth (2018年～)
- 4.Editorial Adviser, Asian Economic Journal (2017年～)
- 5.International Advisory Board member, Singapore Economic Review (2016年～)
- 6.International Advisory Board member, Thailand and the World Economy (formerly Thammasat Economic Journal) (2015年～)
- 7.Editorial Advisory Board member, Philippine Review of Economics (2013年～)
- 8.Board of Editors member, Japan and the World Economy (2006年～)
- 9.Editorial Board member, Journal of Family and Economic Issues (2004年～)

■その他メディア掲載など

- 1.対談記事「Japan in Focus」 (浦田秀次郎氏との対談) 『Faculti』 2025年2月11日
- 2.紹介記事「The Luckiest Generation: Live a Little」 『The Economist』 57-58頁 2024年6月1日

<国際交流活動>

1. “Health Insurance and Health Expenditure in Ghana” (2021 年～)
Kwame Adjei-Mantey, University of Environment and Sustainable Development. Accra, Ghana
2. “The Saving Behavior of the Elderly in Italy” (2017 年～)
Luigi Ventura, Sapienza, University of Rome, Italy
“An International Comparison of Happiness, Life Satisfaction, and Social Trust” (2016 年～)
3. K. Ali Akkemik, Yamaguchi University, Japan (citizen of Turkey)
Gerçek Çiçek, MEF University, Turkey, and Otto von Guericke University Magdeburg, Germany
Yoko Niimi, Doshisha University, Japan
4. “Completing the Solution to the Feldstein-Horioka Puzzle” (2015 年～)
Nicholas Ford, University of Cambridge, United Kingdom
5. “The Impact of Bequest Motives on the Behavior of Parents and Children” (2012 年～)
Emin Gahramanov, American University of Sharjah, United Arab Emirates
Aziz Hayat, Deakin University, Australia
Xueli Tang, Deakin University, Australia

准教授 加藤 諒 (Ryo KATO)

- ・ 計算社会科学研究所センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. 「企業の人的資本指標が財務指標、ブランド指標、企業価値に与える影響に関する実証分析」『日経広告研究所報』 Vol. 335 pp.22-29 2024 年 6 月

■掲載予定論文

□未掲載論文(DP/WP)

1. “Empirical Validation of the Attraction Effect Using Randomized Field Experiments: Real-World Evidence of Contextual Decision-Making Bias,” (with Hashimoto, Taiga and Hoshino, Takahiro), *RIEB Discussion Paper Series*, No.2024-33, October 2024, 29pp.

<社会活動>

■所属学会

1. 日本マーケティング・サイエンス学会
2. 日本行動計量学会

■学外委員その他

総務省統計局 個人企業経済統計欠測値補完に関する意見交換会 構成員

<産官学連携>

・共同研究

尼崎信用金庫：「ESG 要素を考慮した事業性評価の深化を通じた地域における事業者視線体制構築の推進」（2022 年度～2024 年度）（研究参加者）

特命助教 ロミチ, イヴァン (Ivan ROMIC)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Static Network Structure Cannot Stabilize Cooperation Among Large Language Model Agents” (with Jin Han, Balaraju Battu, Talal Rahwan, Petter Holme), *PLOS One*, forthcoming
2. “The Concomitance of Prosociality and Social Networking Agency,” (with Danyang Jia, Lei Shi, Qi Su, Chen Liu, Jinzhuo Liu, Petter Holme, Xuelong Li, and Zhen Wang), *Nature Human Behaviour*, forthcoming

<学会報告等研究活動>

1. (司会) The 2nd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, University of Amsterdam, March 5, 2025
2. (報告) “Can LLMs Mirror Human Cooperation? Insights from Social Dilemmas,” The 2nd Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2025, University of Amsterdam, March 5, 2025
3. (司会) CCSS Workshop on Computational Social Science: Methods and Applications, Kobe University, December 26, 2024
4. (報告) “Does the Hometown Tax System Create a Social Dilemma?,” CCSS Workshop on Computational Social Science: Methods and Applications, Kobe University, December 26, 2024
5. (報告) “Game Theory of Hometown Tax System,” The 20th International Conference on Social Dilemmas, Leiden University, July 5, 2024
6. (報告) “Freedom of Choice in Economic Games,” FEBT 2024 Summer School in Behavioral Economics, University of Split, June 27, 2024

<社会活動>

■所属学会

- アメリカ経済学会 (American Economic Association)
- アメリカンナチュラリスト協会 (American Society of Naturalists)

■学術論文レフリー

1. Journal of Business Research
2. Chaos, Solitons & Fractals
3. Complexity

- 4.Integrative Biology
- 5.Journal of Computational Social Science
- 6.Regional Studies, Regional Science
- 7.Progress in Energy

<国際交流活動>

- 1.Zvonimir Basic, University of Glasgow
- 2.Angelo Romano, Leiden University
- 3.Fernando P. Santos, University of Amsterdam
- 4.Zhen Wang, Northwestern Polytechnical University
- 5.Stjepan Srhoj, University of Split

助手 ワカル, ワファ タリク (WAQAR, Wafa Tariq)

- ・ 計算社会科学センター／データ分析部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Acquirers’ corporate governance ratings and the likelihood of deal completion: Do stakeholders care about the agency hazards of European cross-border acquirers?,” (with Yan Ma), *Review of Managerial Science*, Vol. 18, Issue 10, pp.2815-2848, October 2024

■掲載予定レフェリー付論文

1. “Do multinational enterprises with better social performance have a higher likelihood of cross-border acquisition completion? Analyzing the role of reputation for social performance in cross-border acquisitions,” (with Yan Ma), *BRQ Business Research Quarterly*, forthcoming

<学会報告等研究活動>

1. (報告) “Putting Community Before Customers: Legitimacy Dynamic in the International Arena During a Crisis,” (with Kashif Ahmed), (co-authored with Ralf Bebenroth and Miwa Matsuo), Academy of International Business (AIB) 2024 Seoul, Lotte Hotel Seoul, July 6, 2024
2. (報告) “Forerunner, Laggard, Walker, and Talker: Impact of (In)congruent Internal–External CSR Strategies on Market Performance,” (with Kashif Ahmed), (co-authored with Ralf Bebenroth), Academy of International Business (AIB) 2024 Seoul, Lotte Hotel Seoul, July 5, 2024

<社会活動>

■所属学会

Academy of Management
Academy of International Business

准教授 高槻 泰郎 (Yasuo TAKATSUKI)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【書 評】

1. 『金融財政事情』第75巻第23号 2024年6月9頁 (萬代悠『三井大坂両替店—銀行業の先駆け、その技術と挑戦—』中央公論新社, 2024年)

【論 文】

■レフェリー付論文

1. 「近世大坂における米切手担保金融市場」『社会経済史学』第90巻第3号 2024年11月 39-61頁
2. “Construct Structured Data from Genealogies: Case Study on Kansei Chōshū Shokafu,” (with Satoru Nakamura, Taizo Yamada, and Junichi Yamasaki), *2024 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings*, pp.13-18, October 2024

■掲載論文

1. “The Financial Dealings of the Lord Class,” *Japanese Research in Business History*, Vol.41, pp.3-15, December 2024
2. “Introduction: A Survey of Research on Early-Modern Japanese Financial History,” *Japanese Research in Business History*, Vol.41, pp.1-2, December 2024

【その他】

1. 「歴史的数値データのデジタル公開について」『RIEB ニュースレター』コラム No.266 2025年2月
2. 「商人から大名への献金—十八世紀中期の大坂を事例に—」『日本歴史』第915号 2024年8月 71-73頁
3. 「江戸時代の金融イノベーション 1 —証券取引市場の形成—」『SBI 金融経済研究所レポート』2024年7月
4. 「<歴史に学ぶ 関西経済>加島屋の強みとは 大胆に業態変え生き残る」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2024年4月

<学会報告等研究活動>

1. (招待講演) 大阪大学経済史経営史研究会 大阪大学 2025年3月6日 「秤量貨幣から計数貨幣へ—近世日本の貨幣を素材に—」
2. (招待講演) 第9回近畿大学経済研究会 近畿大学 2025年1月6日 「秤量貨幣から計数貨幣へ—近世日本の貨幣を素材に—」

3. (講演) グローバル経済史研究部会 早稲田大学 2024 年 11 月 12 日 「秤量貨幣から計数貨幣へ—近世日本の貨幣を素材に—」
4. (招待講演) 「大阪の歴史を掘る 2024」講演会 大阪歴史博物館 2024 年 9 月 21 日 「近世大坂蔵屋敷の果たした経済的役割について」
5. (招待講演) シンポジウム「デジタル化と歴史研究の未来—人文学・社会科学の協働—」東京大学史料編纂所 2024 年 9 月 7 日 「経済史研究における基盤的数量データの公開・活用」(オンライン開催)
6. (セミナー報告) RIEB セミナー 神戸大学 2024 年 8 月 5 日 「近世日本の『計数銀貨』再考—レスポンス」
7. (セミナー報告) ワークショップ「貨幣再考：学際的アプローチ」神戸大学 2024 年 8 月 4 日 「近世日本の『計数銀貨』再考」
8. (招待講演) 日本経済思想史学会第 35 回全国大会 同志社大学 2024 年 5 月 18 日 「近世日本の中央市場・大坂の経済思想—米相場へのまなざし—」
9. (ポスター発表) European Geosciences Union (EGU) General Assembly 2024, Austria Center Vienna April 17, 2024, “Abnormal Climate and the Market Economy: The Relationship between Reconstructed Solar Radiation and Rice Price during the Famine of 1830s in Japan” (by Mika Ichino) (joint work with Kooiti Masuda and Takehiko Mikami)

<社会活動>

■取材協力

1. 朝日新聞(朝刊/電子版)、「(はじまりを歩く)伝書鳩 大阪府、茨城県 米価を伝える、商人らの情熱」、2025 年 1 月 18 日付

■編集委員・学外委員

編集委員

- ・日本経済史研究所(2019 年 6 月 1 日～)
- ・政治経済学・経済史学会(2014 年 12 月 1 日～)

■学外委員

- ・日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員(2023 年 10 月 13 日～)
- ・日本学術会議連携会員(2017 年 10 月 1 日～)
- ・日本学術会議若手アカデミー(2017 年 10 月 1 日～)

■参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト(「気候適応史料プロジェクト」)

■メディア掲載など

著書『大坂堂島米市場—江戸幕府 vs 市場経済—』(講談社 2018 年)が「春秋」『日本経済新聞』(2025 年 3 月 17 日付朝刊および電子版)にて引用される

<産官学連携>

- ・共同研究

大阪商工会議所：『五代友厚関係文書』を用いた共同研究（2022～2024年度）（研究代表者）

<国際交流活動>

「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」
SNG Tuan Hwee（シンガポール国立大学）と共同研究

<受賞>

2024年8月 神戸大学金融研究会 研究論文賞 “The role of information in the Rice Exchange: YAMAGATA Bantō’s Great Knowledge (1806),” (with Taro Hisamatsu), *The European Journal of the History of Economic Thought*

特命講師 小代 薫 (Kaoru KOSHIRO)

- ・ 計算社会科学研究所センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【その他】

■記事(メディア掲載/解説/コメント/インタビュー記事/寄稿)

1. 「<観光資源開発の現場から (12)>神戸・北野異人館街その2 戦災、震災越え 活用が課題」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2025年3月12日
2. 「<観光資源開発の現場から (11)>神戸・北野異人館街 民間資本活用 150年前に着手」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2025年2月8日
3. 「<観光資源開発の現場から (10)>和歌山市 旧文化ゾーン再整備計画 医療施設が核 歩いて楽しめる街」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2025年1月15日
4. 「<観光資源開発の現場から (9)>神戸大の建物群 水平の広がり 闊達に優美に」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年12月11日
5. 「<観光資源開発の現場から (8)>神戸旧居留地・ベイエリア (後編) 地域主導のまちづくり 歴史重ね」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年11月13日
6. 「<観光資源開発の現場から (7)>神戸旧居留地・ベイエリア (前編) 新旧の風景 交差する最前線」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年10月16日
7. 「<観光資源開発の現場から (6)>神戸の地勢と文学 (後編) まちの匂いや光 追体験するには」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年9月18日
8. 「<観光資源開発の現場から (5)>神戸の地勢と文学 (前編) 海、まち、山の『境界』 作品に登場」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年8月21日
9. 「<観光資源開発の現場から (4)>茶事 (後編) 伝統文化の『本質』を形に」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年7月24日
10. 「<観光資源開発の現場から (3)>茶事 (前編) 人間関係を芸術領域に」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年6月26日
11. 「<観光資源開発の現場から (2)>布引遊園地 (後編) 神戸の山遊び文化 世界に発信」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年5月29日
12. 「<観光資源開発の現場から (1)>布引遊園地 (前編) 外国人が要望 明治期の名所」『神戸新聞』(夕刊・電子版) 2頁 2024年5月1日
13. 「神戸の観光案内 (その3) ~海軍操練所跡~」『RIEB ニュースレター』No. 256 2024年4月

<学会報告等研究活動>

■その他

1. (司会) 「未来防災会議DAY2 異分野共創ディスカッション」防災減災の国際連続ワークショップ KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2025” 神戸大学百年記念館 (オンライン開催) 2025 年3 月
2. (企画運営 プロデューサー/ディレクター) 防災減災の国際連続ワークショップ KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2025” 神戸大学百年記念館 (オンライン開催) 2025 年3 月
3. (招待講演) 「まちの歴史とスマート化」078KOBE 2025 Talk Session 1 ザロイヤルパークキャンパス神戸三宮 2025 年1 月9 日
4. (招待講演) 「観光資源開発の現場から～布引遊園地」小代薫氏講演会 湊川神社楠公会館 2024年11 月7 日
5. (招待講演) 「日本の山遊び文化発祥の地、六甲山の歴史とその魅力」神戸市老眼大学 令和6 年度 第1 期 第3 回 神戸文化ホール 2024 年5 月

<社会活動>

■所属学会

1. 日本建築学会 正会員
2. 応用地域学会 正会員

■雑誌編集

・ 学術論文レフリー

『日本建築学会計画系論文集』

■学外委員その他

1. 養父市「関宮小さな拠点管理推進会議」 委員
2. 養父市養父市場町「遊休地活用検討委員会」 委員
3. こうべ北野町山本通伝統的建造物保存会 顧問
4. 神戸布引おんたき茶屋保存会 代表 (「実行委員長」)
5. NPO 法人 UnknownKobe 副理事長
6. アーバンデザインセンター神戸 078 (UDC078) 理事
7. 兵庫県建築士会 一級建築士

■その他

・ メディア掲載

1. ラジオ出演 ラジオ関西「神戸大学☆夢ラボ」、2025 年2 月23 日・3 月2 日 (放送)
2. テレビ出演「<日本経済新聞連動企画：数字博物誌>神戸駅 150 周年 神戸の都市形成史についての解説」テレビ大阪「やさしいニュース」、2024 年4 月15 日 (放送)

特命講師 田中 克幸 (Katsuyuki TANAKA)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

掲載予定

“A Multi-Stage Financial Distress Early Warning System: Analyzing Corporate Insolvency with Random Forest,” (with Takuo Higashide, Takuji Kinkyō, and Shigeyuki Hamori), *Journal of Risk and Financial Management*, forthcoming

□未掲載論文(DP/WP)

“Is It Possible to Detect the Insolvency of a Company?,” (with Takuo Higashide, Takuji Kinkyō, and Shigeyuki Hamori), *RIEB Discussion Paper Series*, No.2024-34, Kobe University, October 2024

助教 正田 ヴェラ パオラ レイエス

(Vera Paola Reyes SHODA)

- ・ 計算社会科学センター／データベース部門
- ・ 経済経営研究所

研究活動

<研究業績>

【論文】

■レフェリー付論文

1. “Governors in the Digital Era: Analyzing and Predicting Social Media Engagement Using Machine Learning during the COVID-19 Pandemic in Japan,” (with Salama Shady and Takashi Kamihigashi), Informatics, Vol.11 (2), 17, June 2024

<社会活動>

■所属学会

1. 特定非営利活動法人全国語学教育学会
2. Association for Computing Machinery (ACM)

VI. 今後の展望と方針

本センター（CCSS）は、2018年4月に全学基幹研究推進組織として設置されて以降の短期間において、国内外から著名な研究者を招聘し、CCSS School、CCSS Workshop、計算社会科学ワークショップ等の開催を通じ、国内外の研究者コミュニティに貢献するとともに、研究者を目指す学生に対して教育機会を提供してきた。また、独自のリサーチフェロー制度を設立し、現在、国内外17名の著名研究者がリサーチフェローとなっており、研究者コミュニティとの連携強化に努めてきた。さらに、計算社会科学初の国際査読ジャーナルである「Journal of Computational Social Science」の編集を通じ、国際レベルでの計算社会科学の発展に貢献している。これらの活動を通じ、2021年3月の「計算社会科学会」の設立において中心的役割を果たした。本センターは、国内唯一の計算社会科学に特化した研究センターであるだけでなく、計算社会科学における国際的研究拠点として認知されつつある。

国内外における本センターの重要性が今後さらに高まることは確実である中、以下3つの課題があると考えられる。

1. 予算の獲得

現在独自の予算がない状態であり、外部資金により運営されている活動が多い。ただし、本センターの設立目的自体が外部資金獲得を視野に入れたものであるため、今後、外部資金獲得へ向けた取り組みをさらに強化していく方針である。

2. 学内の他組織との連携

これまで学内他組織との連携により外部資金獲得等の実績をあげてきたが、今後も、連携をさらに強化し、外部資金の獲得等に繋げていく方針である。また、学内外における情報発信も強化し、「計算系・情報系に強い神戸大学」というブランド戦略にも貢献する。

3. 若手人材の育成

長期的な人事方針に関しては先端経済経営研究学域の中で議論する必要があるが、特命を含めた任期付若手研究者については、本センターには人材育成の実績がある。今後も、予算も人事ポイントともに状況が厳しい中、外部資金による特命教員等を中心に、若手人材・女性研究者の採用・育成に努めたい。

本センターでは、上記3課題に取り組むとともに、2021年3月に計算社会科学会が設立され、計算社会科学に対する社会的関心が高まりを見せている中、学術的にも社会的にも貢献度の高い研究もさらに強化していく方針である。